

# ことばの教育推進計画

## 1 実態と課題

<b>読む力</b> ・長文を読み取る力 ・算数科の文章問題 ・読書量 ・読解力	<b>書く力</b> ・語彙量 ・したことや気持ちを的確に表現すること ・自分の考えをもつこと	<b>話す・聞く力</b> ・正しく聞き取ること ・的確に用件を伝えること ・伝え合う態度 ・相手を意識した話し方
--	--	---

## 2 目標

次のような「ことばの力」を育成する。

日常生活に必要な「ことばの力」を定着させる。

**「聞く」「読む」「話す」「書く」技能を習得**

事実を正確に分かりやすく伝える。

場面や目的に応じて適切に伝える。

聞いたり、読んだりしたことを確実に理解する。

学習や社会生活、人生を豊かにする「ことばの力」を育成する。

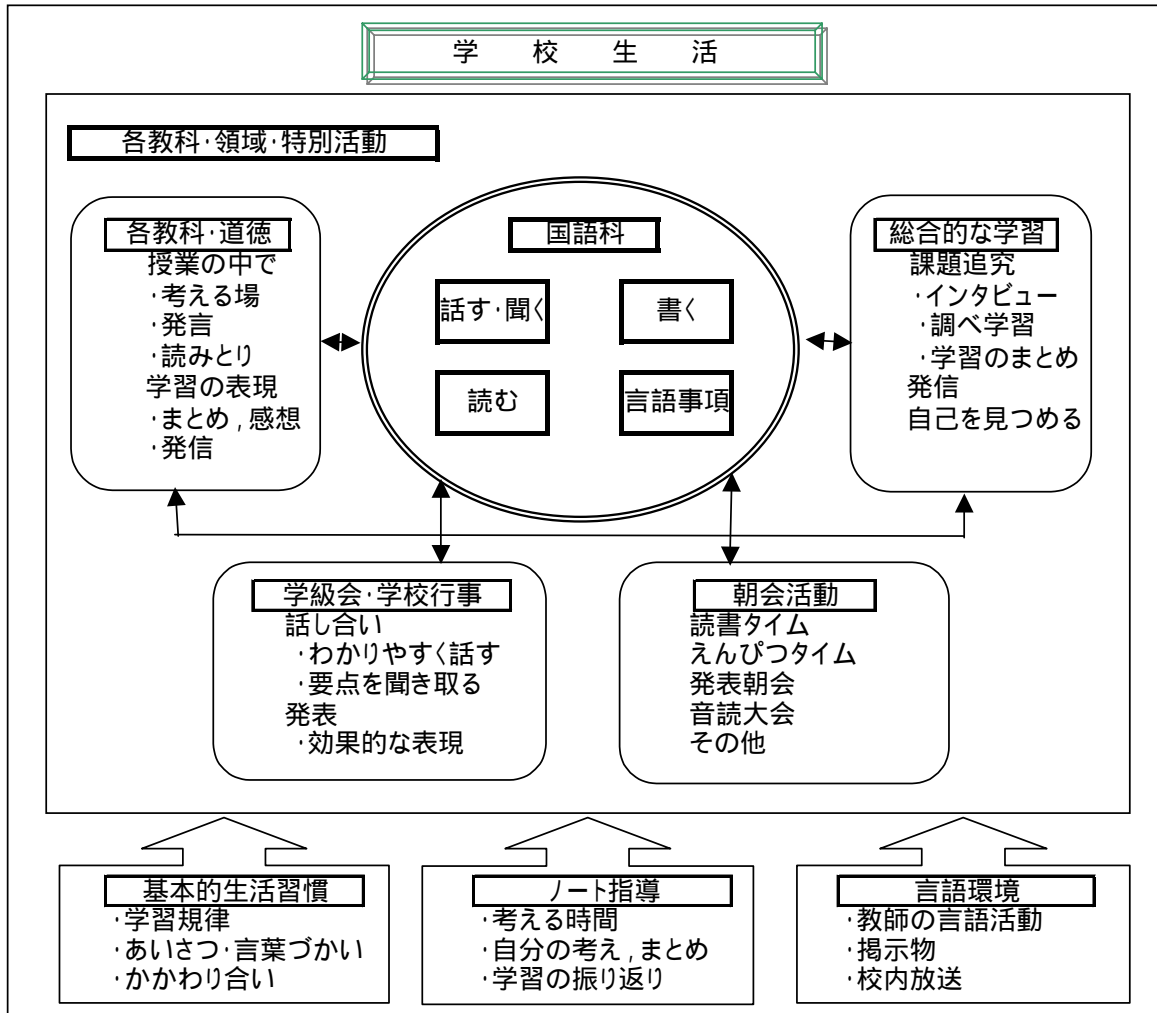
**「考える」「感じる」「表す」能力を開発**

筋道を立てて考え、論理的に表現する。

感受性を働かせ、感情を込めて表現する。

ことばの豊かさを味わい、自ら豊かに表現する。

## 3 構造図



## 4 指導方針

- ア 国語科を核として、言語の基礎基本の力を育成する。(学習指導要領の指導内容)
- イ 各教科、道徳においては、学習のねらいにそって適切な目的意識・相手意識をもたせ、適正に言語活動が行われるよう指導する。不十分な点については国語科等で取り上げて指導していく。
- ウ 総合的な学習や生活科においては、言語活動が生かされる実の場としてとらえ、実際の場においてどんな言語を用いるのか具体的に指導していく場とする。
- エ 学校行事、朝会活動等においては、学習発表会、音読大会などで、各学年の目標をはっきりもち、それを相手に伝えることを意識させ、声の音量や速さなどに注意させる。また、読書タイム、えんぴつタイム、発表朝会などで「読むこと」「書くこと」「聞くこと」の技能が高まるように評価を意識的におこない、次の意欲につなげる。
- オ 日常生活においては、コミュニケーションの手段として、適切な言葉遣いを行うよう指導する。
- カ 「ことばの力」は、学習・生活両面での基礎となる力であるため、児童の課題を踏まえ、「読む・聞く・話す・書く」といった基本的な技能や、「ことば」を通して、児童に「論理的思考力」「表現力」などをより効果的に育成しながら、「知・徳・体」の基礎・基本の徹底を行う。他教科との関連を図り、全教科・領域を通して取り組んでいく。

### 重点的な指導内容

#### 低学年

- ・ 本の読み聞かせを多くし、感性を培う。
- ・ いろいろな表現やことばのリズム等の楽しさを味わわせる。

#### 中学年

- ・ 地域探検等の活動を充実させ、感性を育てる。
- ・ 音読や群読で表現する喜びを味わわせる。

#### 高学年

- ・ 新聞等で読んで、思ったことを書き、発表することにより、社会や自分について考えさせる。
- ・ 俳句・短歌づくりにより、表現する楽しさを味わわせる。

## 5 基盤となる言語環境

教師は正しい言語で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと

校内の掲示板やポスター、児童に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること

校内放送や朝会において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと

適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること

教師と児童、児童相互の話し言葉が適切に行われるような状況をつくること

児童が集団の中で安心して話ができるような教師と児童、児童相互の好ましい人間関係を築くことなどに留意する。